

かごしまの巨木と出逢う



あなたに出逢えてよかった

色あせない感動がここにある



- ◇ 日時:平成27年11月29日
- ◇ 講師:佐伯 直憲氏 (樹木医)
- ◇ 主催:フォレスト22
- ◇ 助成:かごしまみどりの基金



樹木医と巡る 名木・巨木見学ツアー in 肝付・鹿屋



あなたに出逢えてよかった

森の重鎮(巨木)には、身近な地域の人々が大切にしている歴史があるから、訪れる人の心を打つのかも知れません。

幾世代の人々の喜びも悲しみも包み込んできた森の重鎮(巨木)は、いつも人々の暮らしと共に生きてきた。そして、今ここに、凜として立っています。

しかし、巨木は、決して強いわけでもなく、繊細で微妙な環境のバランスの中で生きていることを学ぶことでしょう。

最も尊いのは、

森の重鎮(巨木)を守りぬき、そして、共に寄り添い繋がってきた人々の幾世代を超えた時の重みだと思います。

今回、樹木医 佐伯 直憲氏が専門的な立場で優しく丁寧にご案内いたします。佐伯氏のみが語れる、多くの貴重な体験を知り得る、絶好の機会になると思います。多くの気づきや感動を持ち帰ってください。

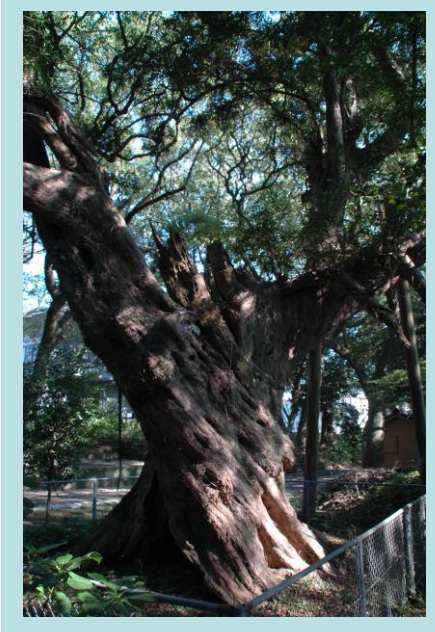
そして、自分のふるさとや身近な地域の良さに目を向けてくださったら嬉しく思います。

さあ、出かけましょう！

【この活動は、公益財団法人 かごしまみどりの基金の助成を受けて実施している事業です。】



熊野神社 (イヌマキ)

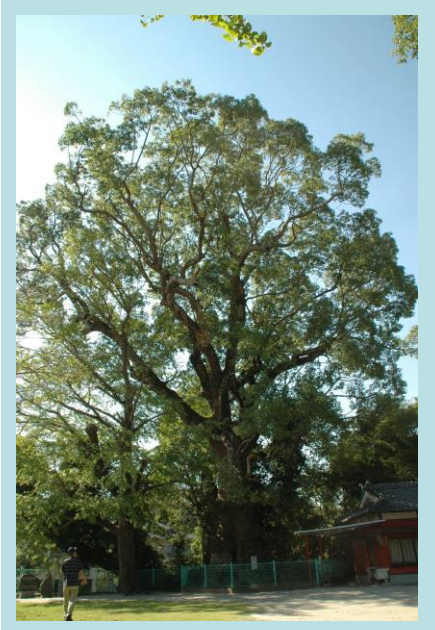


熊野神社のイヌマキは、昭和43年に市指定天然記念物に指定されています。幹周は9mで高さは約20mで県内でも1番大きいイヌマキです。

イヌマキは、裸子植物で、本州以南の海岸に近い山地に生え、雌雄異株で果実は、緑色の球形で赤い火托の上につき火托は甘いです。緑色の果実は、有毒で食べられません。最近、イヌマキの害虫被害が発生しています。葉を食べる害虫は、キオビエダシヤクで年4~5回発生します。鹿児島市では下火になりましたが、南薩地方では、再び被害が現れるようになりました。また、枝や幹が枯れる被害が発生していますが、この原因は、ケブカトラカミキリの被害です。



七狩長田貢神社 (クス)



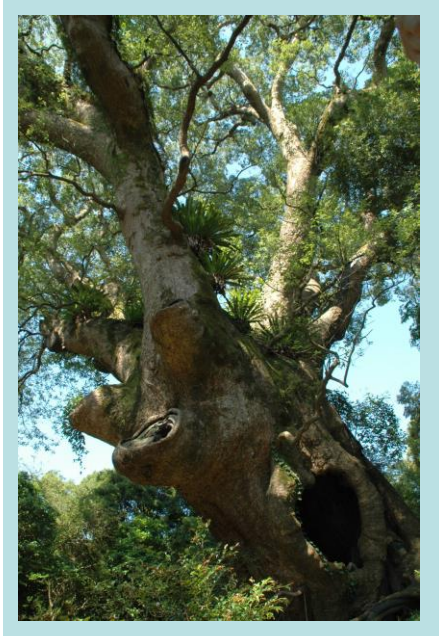
七狩長田貢神社のクスは、昭和48年に市指定天然記念物に指定されています。幹周は、10.8mで樹高25m樹齢は、900年で根元から2本に分かれています。

クスは、常緑高木で本州、四国、九州の暖地でみられるが、野生かどうか解らず、中国江南地方の原産ともいわれるがこれも不明です。





塚崎 (クス)



塚崎のクスは、昭和15年に国指定天然記念物に指定されました。幹周14m高さ約25m、樹齢1300年で鹿児島県内にある国の天然記念物の4本のうちの1本です。このクスは、国の史跡の上に国の天然記念物が生育しているという面白い生育状況です。

オオタニワタリという大型のシダ植物が着生しており、樹勢も良好です。根元側の空洞は、ハート型のような形です。

また、北側の山林には、古墳が散在し時間があれば散策したいと思います。



諏訪両神社 (イチョウ・モミ・イヌマキ)



諏訪両神社のイチョウ、モミ、イヌマキは、昭和56年市指定天然記念物に指定されました。

イチョウは、幹周8.3m樹高19.6m樹齢400年で県内でも有数の大きさです。令和20年の台風で主幹が折れましたが脇芽が伸びています。

イチョウは、自生説もありますが、文献では、近衛道嗣が『愚管記』に永徳元年(1381)に記載が去れていたのが最初であり、14世紀に中国から持ち込まれた可能性が高いといわれています。

イヌマキは、幹周3.4m樹高22m樹齢400年です。幹には、約3cmの鎌が打ち込まれ樹皮が凸凹になっています。戦陣に向かう時、武運長久を願って鎌を打ち込み、無事帰還すると願ほど気で鎌を打ち込んだそうです。

モミは、幹周4.7m樹高32.7m樹齢400年です。幹の途中部まで枝はなく、冲天そびえています。

モミは、モミ属のなかで最暖地に生じ、暖帯地帯の代表樹種です。生長は、初めは遅いですが10年後からきわめて早く短命です。用途は、庭木、建築材、棺、塔婆等に利用されます。



宮浦宮 (夫婦イチョウ)



宮浦宮の夫婦イチョウは、社殿の両側に生育しています。樹高は、両方共、38mで幹回りは、右側が8.4m、左側は8.2m、県内で1番と3番です。2番目は、鹿屋市輝北町の諏訪両神社に生育しています。

夫婦イチョウと呼ばれていますが、両方とも雌木です。右側は、1791年(寛政3年)の大火による焼け跡があり、左側は、1877年(明治10年)の西南の役の際の砲弾跡があります。昭和39年に県指定天然記念物に指定されています。

日本一のイチョウは、青森県深浦町の北金ヶ沢のイチョウで樹高40m、幹回り22mで気根が発達していて地元では「垂乳根のイチョウ」と呼ばれています。

宮浦宮は、延喜式内社として醍醐天皇の代から(約千数百年前)の古い由緒があり、大隅五社の一つである。

伝えたい想いがここにある フォレスト22 森の物語

私たちフォレスト22は、美しく豊かな自然を次世代に引き継ぐために、森林ボランティア活動を通して自然環境の維持保全の活動をしています。

自分たちのできることを一歩ずつ、想いは地球サイズです。

